

2011年12月13日【外為Lab】松田哲

タイトル：【今年の重要なテーマは来年に持ち越す】

12月に入って投資家には気になる材料が出てきました。

12月2日に発表された11月の米国雇用統計は、失業率が8.6%まで下がり、ほぼ2年半ぶりの低水準となりました。

※先月の失業率の大幅な低下は、  
『就業を諦めてしまった労働者が沢山いたので、失業率が下がった』  
と、考える向きも市場にはあるようです。

ECB（欧州中央銀行）は、リセッション（景気後退）懸念に対処するため12月8日の政策委員会で、2カ月連続の利下げを決めました。

さらに、9日のEU（欧州連合）首脳会議では、英国を除く26カ国がユーロ圏の財政規律強化に向けた条約締結を目指すことで合意しました。

「さあ、この材料で年末に向けて最後の勝負を」  
と考えている投資家もいることでしょう。

しかし、これらの材料によって、米国の景気低迷や欧州の財政危機という重要なテーマに決着が付くわけではありません。

むしろ逆に、  
『重要なテーマは、決着せずに、来年に持ち越されることが決まった』  
と解釈すべきでしょう。

来週はクリスマス、再来週は年末を迎えます。

これまでに30回近くクリスマス相場を体験した経験から言えることは、  
『この時期は、マーケット参加者が少ないために、相場が凧のように静かになるか、逆に、想定を超えるような大きな動きを見せるか』  
のどちらかであるということです。

今年はどちらになるのかは分かりませんが、どちらであっても典型的なクリスマス相場の様相を見せるのでしょう。

相場が好きで、常に関わっていたいと願う投資家には酷かも知れませんが、クリスマス相場で「最後の勝負」をするよりも、新年から始まる相場に備えて材料を吟味しながら体力を温存する、あるいは、完全に相場を忘れてリフレッシュするほうが得策です。

+++++

(2011年12月13日東京時間11:30記述)